令和5年度 学校自己評価システムシート

日高市立高萩中学校

| 目指す学校像 | 1 | みんなで創る 笑顔あふれる おらが地域の学校 | | | | | | | | | |
|---|---|--|----|----------------------|----|-----------|--|------|---|---|--|
| 重点目標 | 豊かな心の育成 確かな学力の向上 健やかな体を育む環境整備 開かれた学校 教職員の資質向上 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | 学 | ; | 校 | 自 己 評 | 1 | | | |
| 年 度 標 | | | | 年度評価 (令和 6年 1月12日現在) | | | | | | 学校運営協議会での評価 | 「学校運営協議会での評 価」を受けて |
| 評価項目 | 具体的方策 | 評 価 指 標 | | A+Bの割合 職員 保 | | 合 保護者 | 目標の達成状況 | | 次年度への課題と改善策 ・次年度へ継続する課題 ・改善していくための方向性 | 実施日 令和6年 1月 22 日 学校運営協議会の委員からの 意見・要望・評価等 | 「次年度の課題と改善策」に 係る変更点や追加事項等 (<u>※変更点や追加事項等が</u> ない場合は空欄) |
| 組織運営の充実(小中一貫の視点) | ・学校教育目標(賢く 優しく 逞しく)の具現 化 | 学校は、「よりよく生きる力を育む」ために「自ら学ぶ力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を積極的に進めている。 | R4 | 100% | R4 | | ・コロナ禍の制限を少しずつ解除しながら 教育課程を工夫、編成し、教育活動を展 開した。落ち着いた雰囲気の中で授業や 学年学級活動ができている。 ・兼務発令を行い、週2日中学校から小学 校へ教師を派遣した。 | ٨ | ・学校教育目標と学年学級目標の繋がりの 見える化を進めると共に、小中一貫教育の視 点から小学校と協働で意図的な指導の場を 増やす。 ・日課表、時間割の工夫(グランド、体育館等 の施設や使用機器、機材の共有、委員会活 | ・コロナで大変な時期を乗り越えて、小中合同での 研修会を実施し、9年間を見通した指導法の改善を されて、着々と次のステップへ進んでいる。1年後 が楽しみである。 ・保護者 評価が良いことは先生方がよく頑張って いることの表れである。学校が落ち着いており、生 徒を伸ばそうとしていると保護者が感じていること が推察される。 ・小中一貫教育の視点での取り組みが良くなされ ている。 | -6.1 - 30 L 10 L 10 P |
| | | 2 学校は、生徒一人一人の良さを認め、よりよい人間関係づくり の指導に積極的に取り組んでいる。 | 96 | 89% | 89 | 83% | ・学校全体で学習指導体制や生徒指導教育相談体制を整え、生徒の良さを認め、 悩みや不安に早期に対応することができた。 ・小中合同での研修会を実施し、9年間を 見通した指導法の改善を行った。 | A | 動の合同実施)や、各教科年間指導計画の 工夫(プール使用期間の割り振り等)を行う。 ・特別活動と人権教育を中心に、よりよい人 間関係づくりを進め、さらに教育相談体制の 充実を図り、生徒理解を深めていく。 | | |
| 基礎学力の定 着 | ・わかる授業の実践と学習習慣の定着 | 学校は、授業において「めあて」を明示し、生徒の言葉で「まと 3 め」を行う等、「できた、わかった」と感じられる授業実践をして いる。 | 91 | 95% | 89 | | ・外部指導者を招聘した授業研究会を重ね、授業計画力、実践力を向上させた。 ・毎授業において「めあて」を明示し、「まとめ」としての振り返りを実施することができた。一方で、生徒が「できた、わかった」と「感じ、実際に学力が向上するには至って | Α | ・授業でのICT機器の効果的活用や、指導と評価の一体化等の研修により、教師一人ひとりの授業力を向上させる。・9年間を見通した学習規律の確立、学習スタイル(授業・家庭学習)の確立ができるような小中合同での取組を行う。 | ・めあて一(理由・根拠を考えさせる)一振り返り・まとめ 一できた、わかった。この流れは素晴らしい。成果はすぐに出るものではない、続けていくことで、来年度結果が良くなるのではないかと考える。是非続けて欲しい。 ・授業を参観した。教室にはユーモアがあり、さらに真剣に授業に取り組んでいる生徒の姿があった。・授業研究会を重ね、実践力を向しさせたことは素晴らしい。これが生徒の学力向上に結びつくよう、家庭学習等との関連を含め、改善していことが大事、結果に期待したい。・行事の単備を減らし、学習時間を増やすことはどうなのか、行事も子供にとっては大事なことだと思う。・ダブレットでデジタルでの自主学習を推進したい。デジタル化することで先生の負担を改善できるようにするとよい。 | |
| | | 4 学校は、生徒が積極的に家庭学習に取り組めるよう指導に努めている。 | 91 | 79% | 76 | | いない。 ・授業の中で理由・根拠を考えさせる場面を必須とした。12月生徒アンケートでは、 90%の生徒が理由・根拠を考えることができたと回答した。 | | ・学校行事等を見直し、授業時間数を充実させる。 ・効果的な家庭学習の取組について研究し、 小中で共有を図る。 ・自宅学習システムと連携した家庭学習の確立を進める。 | | |
| 保護者や地域 との連携(コ ミュニ ティー・ス クールの視 点) | ・目指す学校像「みんなで創る笑顔あふれるおらが地域の学校」の具現化 | 5 学校は、授業や行事の公開、各種たよりを通じて、教育活動を 知ってもらう取り組みを積極的に進めている。 | 96 | 100% | 94 | 91% | ・感染拡大等を懸念した来場制限を行わずに、学校行事等を公開できた。 ・各種たよりは紙面で発行し、地域へも回覧、家庭への通知文書も含めて、学校ホームページで公開し、いつでも閲覧できるようにした。 | Α | ・学校運営協議会、地域学校協働本部との連携を強化する。 ・保護者会、授業参観等への参加率を高める。 ・学校ホームページを充実させる。 | ・様々な行事ができてよかった。 ・来場制限を行わず、公開できたのは良かった。 ・小学校に比べて 色々な行事や授業を公開していても保護者の評価が上がっていない。保護者の参加率があまり良くなったからではないかと思う。 ・学校行事の拡大不足に保護者の不満があるよう | ・行事計画の見直し |
| | | 6 学校は、PTAや小学校、地域の人々と連携して教育活動に取り 組んでいる。 | 96 | 100% | 91 | 93% | ・PTAによる萩中フェスタや資源回収、地域学校協働本部環境整美部会による校庭の除草作業を行った。 ・小学校との施設共同利用は、昨年度の反省点を生かし、スムーズに進んだ。 | | ・地域の活動へ参加する生徒を増やしていく。地域と交流させるシステムを構築していく。 | ・地域学校協働本部と連携し、除草作業が行われたことはとても良かった。 ・各種便りを地域へ回覧し、地域や PTA とのつな | |
| 社会性・人間 性の育成 | ・よりよく生きる力の 育成 | 7 学校は、生徒が周囲の人との絆を大切にしながら、将来の夢や 希望の実現ができるよう指導している。 | 91 | 89% | 86 | | ・学校行事へ取組や、学級活動、生徒会活動におけるコミュニケーション活動が感染症による制限を受けずに実施できた。・進路キャリア学習の一環として、4年ぶりに職場体験(1年)を実施する。・合唱祭が感染症流行期に重なったが、開催日の延期、開催方法の工夫により、予定通りの発表ができた。 | | ・コロナ禍にあって、不足しがちであった体験活動を充実させていく。特に、社会や大人と出会い、協働する体験を増やしていく。そのために地域・社会に生徒を出していく。そのなかで将来の生き方を学び、考えることを通し、生きる力を育む。 ・変化の激しい社会に対応し、そのなかを逞しく生きていく生徒を育てる。 ・働き方改革の視点を持ちながら、学校行事等の教育活動を見直していく。 | ・職場体験が実施できてよかった ・子供たちは先生方との出会いの影響が大きい。 たくさんの魅力的な大人と出会ってほしい。 ・たくさんの学校行事が行われ 学校生活が昨年よ りも充実していたと思う。行事を通じて 生徒たちの 成長も見られたように感じる。学校行事が生徒に | |
| | | 8 学校は、生徒が学校行事や学級活動、生徒会活動を通して、よりよい学校生活が創れるよう指導している。 | 91 | 100% | 84 | 0070 | | | | とってプラスになるということがわかった。 ・合唱祭の開催日を延期し、予定通りできてよかった。特に3年生は全員の1つになった思いが歌に込められていて、心に響く演奏に感動した。 ・伝統校における行事のスクラップは英断である。 | |
| 安心安全な教 育環境 | ・安心で安全な学校環境づくり | 9 学校は、生徒を安心して通わせることができる学校づくりに努めている。 | 96 | 89% | 92 | | ・プール改修工事、トイレバリアフリー化工事を実施した。長期間に渡り、不自由かつ危険な状態にあったが、安全管理・指導を徹底し、事故なく完了することができた。・・いじめ、体罰、性暴力のアンケートを実 | De B | ・学校、教室に入れない生徒への組織的アプローチ(高萩中ユリイカの活用、オンライン配信等)をさらに充実させるよう、生徒指導、教育相談体制を整えていく。 ・教員による対応に加えて、SC、SSW、市子育て応援課、警察、病院等外部機関と連携した「チーム高萩中」としての対応を充実していく。 ・不祥事防止、教職員事故防止の研修を、計画的継続的に実施していく。 | ・学校、教室に入れない生徒が年々増えているが学校だけの問題ではなく保護者の子供への関わり方の影響も大きい。学校 も多くの力を借りて、先生方の負担を軽減できればと考える。 ・ブールやパリアフリー化工事を事故なく完了したこと素晴らしい。 ・これから変わっていく学校がチーム高萩中に守られているという類もしさを感じた。 | ・外部機関とのさらなる連携強化策・指標の検討と、保護者との連携強 |
| | | 10 学校は、いじめ解決等に向けて、相談しやすい環境づくりに努めている。 | 91 | 89% | 84 | 75% | 施し、いじめや問題行動を早期に発見し、 組織的に対応できるように努めた。3者・2 者相談の機会を多く設け、相談環境を整 えた。 ・個人情報の紛失、SNSの不適切使用が あった。 | | | ・いじめ等のアンケート実施は早期発見に効力を発揮した。 ・指標について職員と保護者で画一した方向性が示されている 必要がある。教師の指導方針が保護者に届いていないと思わ れる。 ・個人情報の取り扱いには厳重な管理が必要だと感じる。不祥 事があったことは残念だが、反省を生かして同じことが起きない ようにつなげればよい。信頼の回復を。 | 化策 |

※達成度 :「A」ほぼ達成(評価結果の全てが8割以上)・「B」概ね達成(評価結果の全てが6割以上)・「C」変化の兆し(評価結果の全てが4割以上)・「D」不十分(評価結果の全てが4割未満)